

## 7番（小川義昭君）

確かにJR松任駅での乗車客が新幹線効果でふえたとのこと、これ本当に大変よいことかなというふうに思っております。

しかし、情報センターがどこにあるのかわからない、それを聞こうにも交番がない、鶴来・白山ろく方面へ行きたいけれども、十分なアクセスがないというような、このような現状では、二度と訪れていただけるのか疑問かと思えます。また、真逆のリピーターがふえるのではないかと心配する1つでもございます。

ぜひこのような事態に陥らないよう、また、広い地域に一体感をもたらし、地域住民の融和を図るためにも、早急に今ほど御答弁いただいた解決策をしっかりと前向きに進めていただきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

次に、「白山市文化振興計画」の策定についてお伺いいたします。

ことし4月、白山市文化振興条例が制定されました。文化が息づく感性豊かなまちづくりを推進していく上で、このたびの文化振興条例の制定は大変有効であり、提言者である私といたしましても、喜ばしい政策の進展と受けとめております。

しかしながら、より肝心なことは、条例に基づく文化振興計画が充実し、的を射た内容となるのか否か、その一点に市を挙げて注力していくことに尽きると考えます。

そこで、私見を述べさせていただきます。それは、来年、白山開山1300年を迎える白山修験がもたらした本市の悠久の歴史と文化の継承にほかなりません。政教分離の鉄則があり、心して取り組まなければなりません。伊勢神宮や熊野古道など、地元自治体が郷土の誇りとし、文化財として守り抜いてきた信仰事例は国内に数多く存在しています。白山信仰もまた、白山神社の総元締めとして白山比咩神社があり、開山から1300年という長い歴史を刻んだこと、広い加賀平野の守り神として連綿と受け継がれた先人の魂を知り、記憶にとどめ置くことは、目下の急務ではないかと考えます。これは、近い将来、世界文化遺産の候補に手を上げて何ら不思議ではない文化のきらめきがあり、ふるさと教育の教材としても適しており、市としては何ができるのか、文化振興計画を練っていく上で、どうした視点に立つべきなのかを熟慮すべき項目ではないかと思料するものであります。

ことほどさように、文化振興は地域の将来計画や魅力の醸成などとも直結する重要な施策分野であり、個々の民俗文化財や伝統工芸などの保存に注力するだけではなく、より大きな視野で白山市の文化の基点を見つめることが不可欠

であります。そうした観点から、文化創生基金の設置の可能性も含め、白山市文化振興計画を策定し、具体的に本市が目指すべき道筋を明確に事業化する必要があります。

私は、文化とは単に民族、文化財や伝統芸能などの保存に力を入れることではなく、芸術・文化の持っているその創造性を、産業・観光・教育・環境など多面的な分野に影響を与えるように位置づけ、文化政策を産業政策・観光政策・都市計画・環境政策などと融合することが必要かと思います。その具体的な文化振興計画を策定することです。どうか御所見をお願いいたします。